

いずみニュースレター

発行元：社会福祉法人いずみ 東京都東村山市富士見町3-4-16

TEL:042-394-1868 平成29年10月発行 第8号

法人いずみが目指す先

法人いずみ 業務執行理事 松本恭子

平成29年9月8日、富士見町3丁目（ライフサポートつばさ西隣）に『いずみホール』が竣工し、法人いずみが事業展開する建物の方向性、改修と統合が明確になりました。

平成29年10月1日現在、法人いずみには次の3つの建物があります。

あゆみの家 本部	2階：あゆみの家成人部（重症心身障害者の生活介護事業）
	1階：あゆみの家幼児部（児童発達支援事業）

富士見町1丁目
築24年

富士見 事業本部	2階：ひまわり（重症心身障害児の児童発達支援事業）、管理本部
	1階と2階の一部：ライフサポートつばさ（生活介護事業）

富士見町3丁目
築33年

野口 事業本部	スマイル（放課後等デイサービス事業）、
	ひだまり（ホームヘルプ事業）、日中一時（市の委託事業）

野口町3丁目
借家
平成28年床上浸水

どの建物も定員満床で、これから特別支援学校を卒業される方の受け入れスペースがないことが悩みの種でした。また、あゆみの家の建物は空調設備等の老朽化が著しく、設備全交換はもとより、建物2階で事業運営していた、重症心身障害者を対象とする成人部の非常災害時の避難方法が東日本大震災以来の課題でした。あゆみの家は建物改修の資金面の調整も困難でしたが、それ以上に、建物改修中の成人部と幼児部の活動場所の確保が大きな壁でした。また、近年では野口町の建物が床上浸水したこともあり、昨今の大雨を考えると、事業所の移転も検討課題でした。

この突破口となったのが『いずみホール』です。いずみホールをあゆみの家改修中の仮活動場所として使用し、平成30年4月以降、法人いずみの事業所所在地は次のように変化します。

建物		平成29年4月1日（旧）	平成30年4月1日～（新）
あゆみ (1丁目)	2階	成人部	幼児部、スマイル、日中一時
	1階	幼児部	成人部(天井走行リフト、機械浴槽設置)
富士見 (3丁目)	2階	管理本部、ひまわり、つばさ(一部)	ひまわり、つばさ
	1階	つばさ	つばさ
いずみホール (3丁目)	2階	—	管理本部、ひだまり、会議室
	1階	—	多目的室、地域開放
野口	1階	スマイル、ひだまり、日中一時	(あゆみへ引揚げ)

建物が新しく生まれ変わることで、法人いずみの今後も大きく道が開けました。まず、第一に成人部とつばさで各10名程度新規受入れが可能となりました。向う10年はこれから特別支援学校を卒業される皆様のご期待に添えるかと想定しています。

第二に、成人部に機械浴槽を2機設置します。従来のプール室はプール水漏れ等の要因で、シャワーしか提供できなかった環境から、ようやく機械浴槽による入浴サービスが提供できます。当面は成人部からスタートしますが、順次いずみ関係者等、機械浴槽の入浴設備の貸出を考えています。地域生活を支える拠点として地域の皆様のお役に立つサービスの拡大を目指します。

第三に、いずみホールの1階を地域の皆様に開放致します。開放できる時間は事業運営時間外ですので、主に、土日と平日夕方以降になりますが、地域の自治会やサークル活動等、いずみにご登録いただいた団体の方に、戸締り、清掃等を自己管理していただくことで無料で開放致します。詳細は追而別途ご案内致します。

このように環境面の整備が整いましたので、今後は支援の質の向上、職員体制の強化が益々の課題となります。法人いずみは平成17年設立時、正規職員17名、全34名でスタートしましたが、平成29年10月1日現在、正規職員36名、非常勤、嘱託を含め100名を超えました。個々の支援技術はもとより、組織力の向上、強化も求められています。建物の改修と統合により、平成30年度からは法人いずみにおける建物は富士見町の1丁目と3丁目の2か所となりますので、1つの建物内の職員数が増え、職員交流による変化も期待できます。職員一人一人が、法人いずみの職員としての自覚を持ち、更なる高みに向けて挑戦を続けて参ります。

最後に、建物が生まれ変わり、事業規模も拡大していこうとしているこの時に、今一度、法人名〈いずみ〉の由来を確認し、私たち職員が今できること、これから目指す先を確認して終わります。

～いずみの由来（意味）～

創造、共生、エネルギー、健康、いのち、癒し、和み。

以上



いずみホールが竣工しました

1 階、2 階とも広さ 100 m²、計 200 m²のいずみホール。鉄骨構造で 1 階は天井走行リフト、50 ㇻ 4 k テレビを設置しました。また、必要時にはシャワーも利用できる環境を整えました。

特に 1 階は、地域の皆様（別途使用登録必要）にもご利用いただけるよう、セキュリティ対策は 1 階と 2 階を分けています。床暖房に加え、出入り口にはエアーカーテンを設置し、車椅子が出入りする際に入口が大きく開いても、冷暖房が効率よく効くよう考えました。

平成 29 年度下半期は 1 階はあゆみの家成人部が建物改修中の仮活動場所として日中使用し、平成 30 年度以降はライフサポートつばさの活動室の一室として使用します。



シャワー設置



ベッド設置



相談室・応接室



南側入り口

2 階は職員室、会議室、そして相談室兼応接室です。会議室は平成 29 年度下半期は幼児部の拠点的功能として使用し、平成 30 年度以降は、会議室だけでなく、活動スペースとしても利用可能で、多目的に使用します。職員室は管理本部、ライフサポートつばさ、ひまわり、ひだまり、日中一時の職員が使用します。これまで以上に近い環境で職員交流できることで、事業への新しいアイディアが生まれることを期待しています。

いずみホールの内見を行いました

平成 29 年 9 月 29 日（金）夕刻、法人いずみにご関係のある身近な方をお招きして、内見の会を開催しました。

東村山市長様、いずみホールのご近所様、富士見町の町内会役員様、学校関係者様、東村山市議の方、法人いずみ利用者のご家族の皆様等、大勢の方々に御高覧いただきました

いずみホール1階東側



いずみホール1階西側



市長より、ご挨拶



展示物等のご説明



天井走行リフトのご説明

会場には、法人いずみの沿革や、あゆみの家工 事の工程表等を展示しました。また、天井走行リフトのデモンストレーションもご覧いただきました。法人いずみは今後も利用者支援の場としてだけでなく、地域の皆様にもご利用いただき、地域の拠点となれるよう、引き続き努力して参りたいと存じます。

ライフサポートつばさ 2 階が変わります

生活介護事業所 ライフサポートつばさは定員 30 名。平成 29 年 10 月 1 日現在、32 名の登録があります。つばさの建物はもともと定員 20 名用に設計されており、1 名あたりの広さにゆとりを持っていたことから、現在の 30 名まで定員を拡大することができましたが、いよいよ現況のままでは更なる拡大は難しい状況となりました。

法人いずみには未就学児の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスもあり、法人いずみは障害児者の生涯支援を目的としています。それにも関わらず、活動場所がないから定員を拡大できない、特別支援学校卒業後、通所を希望する方の受入れが出来ないというのはあまりに悲しい・・・。

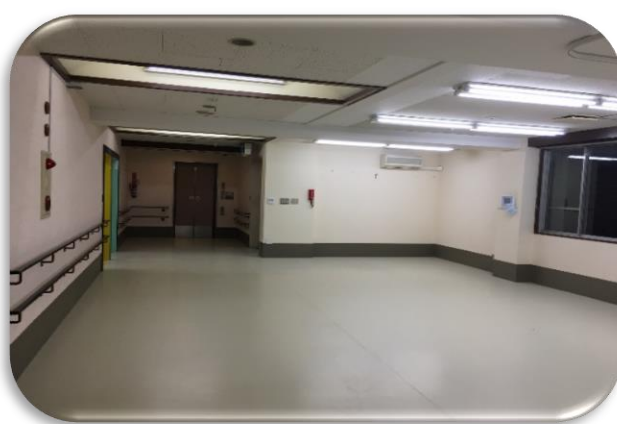
そこで、いずみホールを建設し、つばさ 2 階にあった管理本部を含む職員室をいずみホール 2 階に異動。そしてその空いた場所と廊下を繋げて 60 m²の新しい活動室を作りました。また、いずみホール 1 階もつばさ活動室の一室として活用していきますので、平成 30 年度以降、10 人以上の定員拡大を見込めることとなりました。

活動室が増えることは定員の拡大だけではなく、新しいプログラムの展開も期待できます。ライフサポートつばさを利用される方々にとって更に魅力ある内容が提供できるよう努力して参りたいと思います。

〔担当松本〕



新活動室 東側



新活動室 西側

60 m²の一つの空間になりました



駐車場西側入り口の見通しを改善しました

硝子戸の向こう

連載企画 第7回
理事長 福岡憲二

再び “アンコンシャス・ヒポクラシー” (無意識の偽善)

社会福祉の現場では、支援者と利用者の関係がよく問題になります。

本来は措置制度以外では、平等な契約関係であるので、双務的で、利用者の自己責任に基づく自己決定が尊重されます。

実際の現場で耳を澄ますと、利用者に対して支援者が“こうしてあげれば、この人の生きがいのなる”、“私がこの人の成長を指導してきた”、或いは“家族はこの人を理解していない。でも私は理解している。”等々、一方的で、どちらかといえば「やってあげている」意見が聞こえてきます。

しかし、よく考えてみると入所施設ではともかく、通所施設などでは、支援者が利用者に接するのは、一日の内10時から4時までの約6時間。一年間では土曜、日曜など除く240日ぐらい、つまり一年間で時間的に6分の1程度なのです。

つまり本人自身や家族との生活が6分の5と圧倒的に多く、その為、例え支援者の影響は質的に

厚くとも、それでも“私が”と言い切れるものではないでしょう。福祉現場における支援理論においても、バイステックのソーシアル・ワーク7原則の中でワーカーの”統制的な関与“がうたわれています。ワーカーが自分自身の感情を常に自覚して、吟味しながら冷静にかかわることとされています。

換言すれば、支援者と利用者の関係は、遠すぎず、近すぎずで、その距離の中でラポールの形成を心がけるべきなのでしょう。

“一方的ではない。私は誠意をこめて支援している。本当に役立っている。利用者も感謝している。私の誠意や善意を疑うのか”、等々反論もあるでしょう。

果たしてそこに、或いはその奥に無意識の思い込みが潜んではいませんか。アンコンシャス・ヒポクラシー、私の長年のテーマです。

～今後のトピックス～

・いずみコンサート 平成 29 年 11 月 18 日（土）

13：30～開場 14：00 開演

会場：東村山市富士見文化センター1 階ホール

社会福祉法人いずみへご寄付を頂きました。

匿名ご希望 様

有難う御座いました。



社会福祉法人いずみの旗が出来ました

訃報

田崎寿隆さんが 8 月 28 日に脳疾患で急逝されました。享年 67 歳との事。あゆみの家幼児部に 5 年、送迎バスの運転をはじめ、幼児部に通う子ども達のお世話、部屋の管理等で、誠実に丁寧に勤められ、あゆみの子から「じいじ」と呼ばれ、みんなから慕われてきました。

幼児部関係者はもとより、法人役職員全員から心よりご冥福をお祈り申し上げます。



編集後記 ～

暑かった陽射しも和らぎ、急に肌寒いと感じる季節となりました。

法人内のあゆみの家成人部と幼児部が工事の為、しばしのお引越しとなりました。

同じ法人内でもなかなか触れ合う機会は少なかったのですが、これをチャンスに利用者や職員ともに大いに交流してコミュニケーションを取りながら、新しい友人作りや業務の連携を深めていければと思います。

あゆみの家成人部 理学療法士 大西 修

第4回

いずみ

コンサート

出演 新谷 祥子（マリンバ・歌）

2017年11月18日（土）14時 開演 （開場13:30）

会場 東村山市富士見文化センター 1階 ホール 入場無料

主催：社会福祉法人いずみ